



平成 28 年度行政提案型協働事業

小学校・幼稚園訪問ワークショップ事業 報告書

平成 29 年 2 月 25 日(土)

福祉フォーラム in 別杵速見実行委員会



報告書の内容

- 1 障がいを感じてもらうために
- 2 小学校・幼稚園訪問ワークショップ事業の目的
- 3 事業の実施結果
- 4 授業の内容
- 5 ふりかえり
- 6 講師の感想

障がいを身近に感じてもらうために

別府市は、障がいのある人にとって比較的住みやすいまちと言われます。

しかし、市内を見渡すと、車いすではとても通れないような歩道、入るのに段差を乗り越えなければならないお店、自転車が置かれてさえぎられている点字ブロックなど、障がいのある人が生活しにくい状況が多くみられます。

また、別府の人は皆優しく、温かいですが、それでも知的障がい、精神障がいの人などの中には、障がいがあるために地域の人々に溶け込むことができない人がいることも事実です。

このように、障がいのある人が障がいがあるために不利に置かれている状況を改善するためには、より多くの皆様に障がいを身近に感じ、そして理解していただくことが必要です。

この事業は、将来の別府を担う子どもたちに、障がいのある人とともに活動することで、障がいを身近に感じてもらう機会を提供するために行うものです。

小学校・幼稚園訪問ワークショップ事業の目的

民間事業者の力を借りることで、障がい理解の啓発活動を積極的に行っていきたい別府市に対し、任意団体である「福祉フォーラム in 別杵速見実行委員会」が提案したのがこの「小学校・幼稚園訪問ワークショップ事業」です。

「福祉フォーラム in 別杵速見実行委員会」は、市民の立場から障がい福祉とまちづくりについて様々な課題を取り上げ、調査・提言を行うため、平成 13 年に設立された組織です。障がい当事者、障害福祉事業所職員、弁護士、大学教授など、17 人の会員が所属しています。

別府市とこの「福祉フォーラム in 別杵速見実行委員会」、両者のノウハウと思いを合わせ、10 年後、20 年後の別府市をよりよいまちにすることをめざし、この事業の企画を進めました。

別府市・福祉フォーラムで協力して事業実施の準備を行った結果、審査を経て協働のまちづくり補助金の事業として採択され、行政提案型協働事業として行うことになりました。

「小学校・幼稚園訪問ワークショップ事業」は、障がいのある人が自ら講師として幼稚園・小学校を訪問し、子どもたちと一緒にレクリエーションを行ったり、障がいについて話をしたりするものです。子どもたちに障がいを身近に感じてもらうことを目的としています。

別府の将来を担う子どもに障がいを感じてもらう機会を提供するため、別府市と福祉フォーラム in 別杵速見実行委員会が協働して企画・実施しました



H28.12.3 春木川小学校
絵手紙の説明をする講師の原野彰子氏

事業の実施結果

2 幼稚園、3 小学校の計 5 校で実施し、約 620 人の子どもたちが参加しました



H28.10.17 南立石小学校
盲導犬とのふれあいの授業を行う講師の
湯澤純一氏

事業を行う中で最も苦労したことは、受け入れてくれる学校の開拓でした。

この事業は、審査を受け、採択されて初めて活動を始めることができますが、採択が決定したのが 2 月で、それから広報の準備を始めたため、実際に各学校にお知らせできたのは 4 月に入ってからでした。また、別府市障害福祉課も、われわれ福祉フォーラムも初めて行う事業で手探り状態でしたので、準備に時間がかかったこともありました。

このように、スケジュールの問題・経験不足の問題からくる始動の遅れにより、各学校にお知らせしても、一向に申込みの連絡は入りませんでした。このままでは、せっかく厳しい審査を通過して実施できるようになったのに、全て無駄になってしまう。

そこで、市障害福祉課とともに、各学校を訪問して事業をアピールして回る営業活動を始めました。15 校ほど回りました。ほとんどの学校が話は聞いてくれましたが、学校の年間スケジュールが既に固まっていることもあり、なかなか受入れまでには至りませんでした。

しかし、われわれの気持ちが届いたのか、最終的には 2 つの幼稚園、3 つの小学校の合計 5 校が、事業の趣旨に賛同し、受入れを決めていただきました。受け入れていただいた 5 つの学校には本当に感謝しています。

5 つの学校の実施結果は、次のとおりです。合計で、約 620 人の子どもたち、そして春木川小学校、大平山小学校では、保護者にも参加していただきました。

学 校	開催日	対 象	内 容
ひめやま幼稚園	9/7	全園児約 180 人	・盲導犬とのふれあい ・障がい○×クイズ
南立石小学校	10/13,10/17	3 年生約 60 人	・視覚障がいを知る ・盲導犬とのふれあい ・障がい○×クイズ ・サウンドテーブルテニス
海の星幼稚園	10/27	年長児約 50 人	・盲導犬 ・電動車いす体験 ・障がい○×クイズ
春木川小学校	12/3 * 人権参観授業	全校児童約 280 人 及び保護者	・車いすリレー、ポッチャ ・卓球バレー体験 ・障がい○×クイズ ・絵手紙と出会う ・発達障がいを知ろう ・福祉車両を知ろう
大平山小学校	12/3 * 人権参観授業	4 年生約 50 人	・盲導犬とのふれあい ・視覚障がいについて



H28.9.7 ひめやま幼稚園
障がい○×クイズの様子

授業の内容

各学校での授業内容は、次のとおりです。先生方にお世話になりながら授業内容を決定し、実施しました。

(1) ひめやま幼稚園 9月7日

全園児約 180 人が参加し、3 歳児でも参加できる内容をということで、盲導犬とのふれあい、障がい〇×クイズを行いました。

盲導犬とのふれあいでは、子どもたちは盲導犬の説明を興味津々の様子で聞き、ふれあいでは怖がることもなく触ったりなでたりしていました。

障がい〇×クイズでは、障がいに関する簡単なクイズを出しました。子どもたちは声を上げて喜んだり、楽しんで参加していました。

(2) 南立石小学校 10月13日、10月17日

3 年生約 60 人を対象として行いました。2 日間を確保していただき、盲導犬とのふれあい、白杖・点字ブロックの説明、サウンドテーブルテニス、障がい〇×クイズと、視覚障がいについて幅広く学びました。

様々な説明を聞き、体験することで、多角的に視覚障がいを学ぶことができたと思います。子どもたちもレクリエーション感覚で楽しむことができたようです。

なお、南立石小学校では、この事業をきっかけに、校舎正面玄関に手作りの木製スロープを作っていただくなど、バックアップしていただきました。

(3) カトリック海の星幼稚園 10月27日

年長児約 50 人が参加して行いました。天候が心配されましたが、無事運動場で開催できました。盲導犬とのふれあい、電動車いす乗車体験、障がい〇×クイズを行いました。

電動車いす体験では、何人かの子どもたちが障がいのある人と一緒に電動車いすに乗車して運動場を走る体験を行いました。

障がい〇×クイズでは、少し難しい問題もありましたが、意外にもほとんどの子どもが正解するなど、楽しく障がいを学ぶことができたと思います。

(4) 春木川小学校 12月3日

人権参観授業で、全校児童約 280 人を対象に行いました。学年ごとにそれぞれ違う授業を行うということで、我々にとって一大事業になりました。

(1 年生)車いす用福祉車両を知ろう、(2 年生)障がい〇×クイズ、(3 年生)発達障がいを学ぼう！、(4 年生)卓球バレー体験、(5 年生)車いすりレー競争・ボッチャ体験、(6 年生)絵手紙と出会って、の各授業を行いました。

「発達障がいを学ぼう」では、体験を通じて発達障がいを学びました。また、絵手紙と出会ってでは、車いすの講師を1階に迎えに行き、子どもたちで抱えて階段を上って3階の教室まで連れていくなど工夫を凝らした授業を行いました。

(5) 大平山小学校 12月3日

人権参観授業で、4 年生約 50 人を対象に行いました。視覚障がいを学ぶため、白杖の説明や盲導犬とのふれあいなどのメニューを実施しました。

質問コーナーでは、色んな質問が出され、視覚障がいや盲導犬について理解を深める機会になったと思います。



H28.10.27 カトリック海の星幼稚園
電動車いす体験の講義を行う講師の首藤健太氏



H28.12.3 春木川小学校
車いす用福祉車両について説明する講師の五反田法行氏



(実際に出題した問題)

Q点字ブロックを初めて使った国はどこ？

A日本

(約 50 年前に岡山県の道路に初めて設置された)

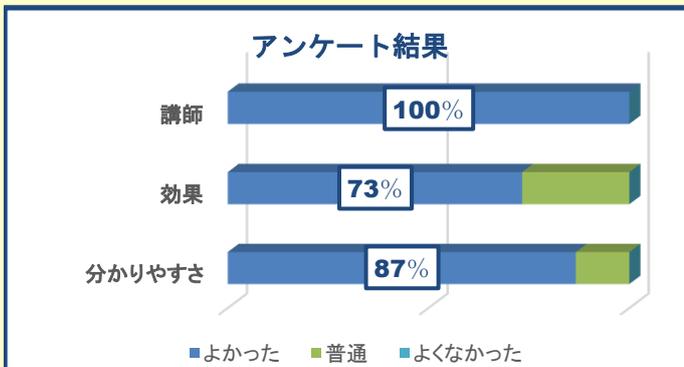
ふりかえり

今年度の活動を振り返ってみると、

- ・約 620 人の子どもたちに参加していただくことができた。
- ・新聞、テレビ等にも多く取り上げていただき、参加者以外の市民への啓発にもつながった。
- ・南立石小学校では、手作りのスロープを作っていただくなど、予想しない副次的な成果もあった。

このように、今年度の事業では、様々な形で成果を上げることができたと思います。

なお、今回事業を実施した学校の先生方からアンケートを記入していただきました。結果は下のグラフのとおりです。「講師」、「効果」、「分かりやすさ」の各項目では、いずれも「よかった」が大多数でした(講師については 100%)。



講師の感想

講師 西田 幸生(視覚障がいについて)

小学校 3 年生 2 クラスを対象に、目の見えない人の誘導についてお話ししました。無邪気で純朴な心に触れることができました。私にとって有意義な楽しいひとときでした。

この経験をもとに工夫を重ねていきたいと思っています。

講師 湯澤 純一(盲導犬とのふれあい)

今回、小学校低学年及び幼稚園で子供達とふれあうことができ、盲導犬とともに喜んでおります。

講師 江藤 裕子(発達障がいについて学ぼう)

小学生対象のプログラムは初めてで戸惑いましたが、小学校 3 年生のみなさんは、真剣なまなざしで参加してくれました。今後も、この体験を踏まえて「発達障がい」を知っていただくために努力していきます。

講師 川野 陽子(障がい〇×クイズ)

主に幼稚園や小学校低学年の生徒さんとともに過ごしました。どの子供たちも瞳がとてもキラキラしていて、私たちの話や車いすなどを興味深く見て、聞いてくれ、毎回子供たちから元気をもらいました。来年度も子供たちとの出会いを楽しみに充実した時間を送ってまいります。

また、そのほかにご意見もいただいています。

(肯定的なご意見)

○車いすの人の困りなどの話を聞いたことは、今後の社会生活の中で生かされる。

○この授業の影響と思われるが、骨折した子どもが助けを必要としているときに、自然とサポートできていた。

○子どもたちが、障がいに限らず人と違うことが当たり前という考えを持つようになった。

(改善点などについてのご意見)

○クイズは分かりやすかったが、(低学年の)子どもがどの程度理解できたか

○話を全て聞き取ることが難しい子どももいるので、要点をまとめたものをスクリーンに映し出すなどしていただけたらもっとよかった。

いただいたご意見のほとんどは、肯定的なものでしたが、改善点などのご意見も複数いただきました。

本事業は、平成 29 年度も「幼稚園・小中学校訪問ワークショップ事業」と銘打って、中学校を新たに対象に加えて実施することが決まっています。

いただいたご意見を基に、より伝わる授業、記憶に残る授業ができるように工夫して実施していきます。

講師 五反田 法行(車いす用福祉車両を知ろう)

今回、ひめやま幼稚園、春木川小学校 1 年生で話をさせていただきました。みなさん興味深々と話を聞いて下さり、質問もたくさん出てきたので良かったです。今後は授業の一環として普及していくといいなと思いますし、そうなるよう、努力していきます。

講師 原野 彰子(絵手紙と出会って)

「自分の事は自分の身体で自分の口で伝えたい」を信念に、真実を正直に心をこめて話すことにより、子供たちの心に伝わるのではないかと思います。

講師 首藤 健太(車いすリレー競争、電動車いす体験)

子ども達と出会う前には、どれだけのことが伝わるのか正直不安でした。しかし、出会ってみると子ども達の吸収が速かったり、南立石小学校では先生がお手製のスロープを作ってくれたり、こちらの期待が良い意味で裏切られるものとなりました。

この経験を生かし、次年度の新たな出会いに向かってさらに成長していきます。